



Weekly Market Report

Jun 6, 2022

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

リセッション懸念は強いものの、経済指標次第では直近高値を目指す展開を予想。

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は、FRBによる利上げ加速懸念を要因とした日米金利差の拡大からドル買い優勢で推移する展開。30日がアメリカの祝日(メモリアル・デー)のため、ドル円は動意に乏しい展開でスタート。週半にかけては31日のFRB ウォラー理事によるタカ派発言や、1日発表のISM製造業景況指数が強めの結果となったことがドル買い材料となり、ドル円は130円前半まで上昇。週後半は3日発表の米雇用統計を控え、130円を挟んで揉み合う展開が続く、当指標が市場予想を上回ったことが発表されると、ドル円は131円近辺まで一段高となり越週。今週は、米消費者物価指数の発表が予定されている。依然としてリセッション懸念は根強いものの、日米金利差拡大が意識されやすく、経済指標次第では131円台後半をトライする動きも予想される。(市場営業部/加藤)

今週の経済指標 (予定)

USD/JPY (5年間)

日付	イベント	予想
6/8(水)	(日本) 第1QGDPデフレーター	-0.4%
6/8(水)	(欧州) 第1QGDP(確報値)	0.3%
6/9(木)	(欧州) ECB理事会	-
6/10(金)	(米国) 5月消費者物価指数(前月比)	0.7%
6/10(金)	(米国) ミシガン大学消費者信頼感指数	58.3



今週のレンジ予想 (USD/JPY)

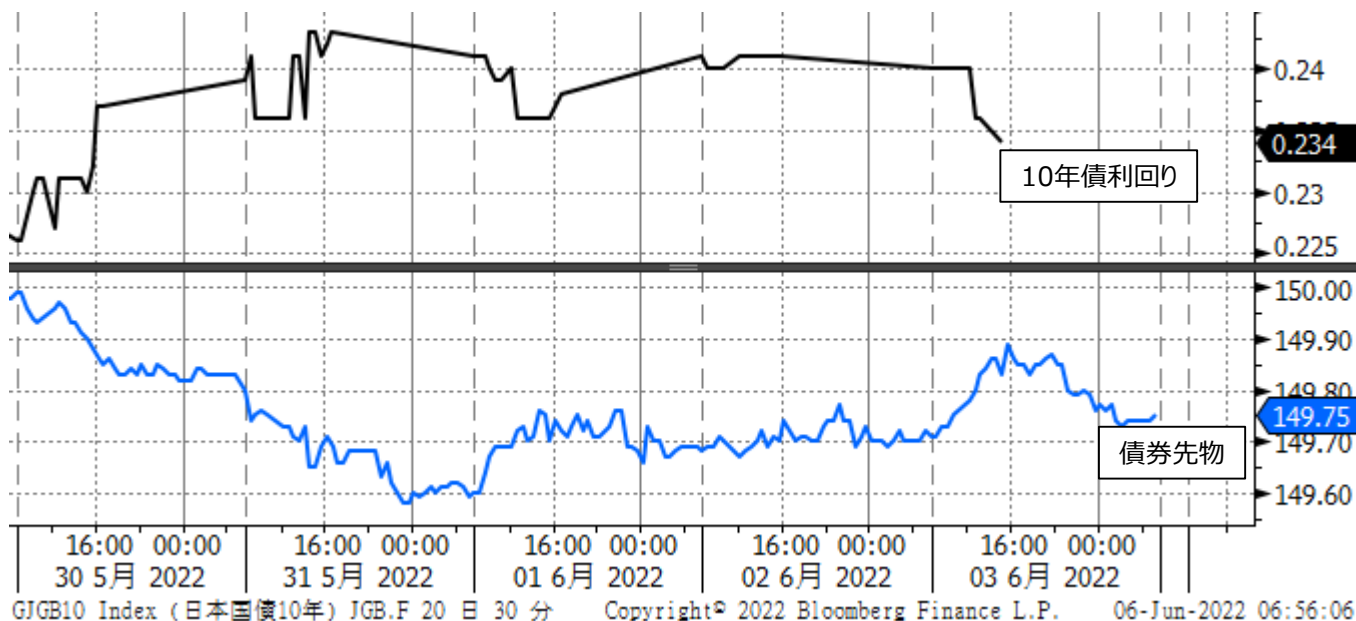
(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
嵯峨大輝	128.70 – 133.00	引き続き円安ドル高の方向性は変わらずか。米経済指標が堅調な結果となる場合、一段の円安進行にも警戒。
三原大希	128.40 – 132.80	ECB、RBAといった金融政策決定会合が予定されている中、日本との金融政策の違いが意識され上値を試す展開か。

2. 円金利相場概況

欧州の消費者物価指数が高く、市場はインフレ警戒ムードに

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



(出所) Bloomberg

コメント

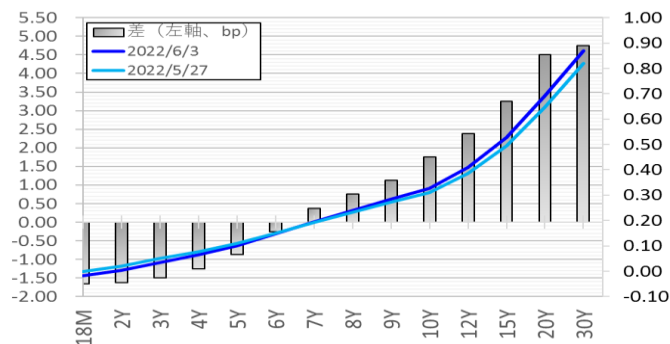
先週の日10年金利は0.225-0.24%近辺で推移。5/30は米債券市場は休場だったが、欧州時間に発表されたEU基準による消費者物価指数(HICP)の発表で債券安に。スペインのHICP(YoY、以下同じ)は予想8.3%に対して実績8.5%、ドイツのHICPは予想8.1%に対して実績8.7%と予想を大きく上振れ。欧州債は軒並み売られて欧州10年金利はドイツ+9.2bp、フランス+8.5bp、スペイン+8.7bp、イタリア+9.8bp(いずれもミッド利回り)と金利上昇した。翌日に発表されたユーロ圏のHICP、イタリアのHICPも予想を上振れし、市場は再びインフレ警戒ムードに。本邦10年金利にも上昇圧力がかかるが、日銀の指値オペをサポートに他年限と比べて金利上昇は緩やか。10年入札を前に金利上昇したが、入札が無難な結果となりその後は底堅く推移。今週は9日にECB、10日に米CPIを控えるが、日銀の政策変更期待の後退、日銀による連続指値オペをサポートに日本の長期金利は底堅く推移すると考える。(市場商品部/金利G)

金利スワップ変化（1週間）

(%)

10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
正村光太郎	0.20% - 0.25%	先週末に米雇用統計をこなし、今週も9日ECB、10日米CPI等の海外指標に注目。上限0.25%近辺の狭いレンジ推移を予想。
伊豆浦有里恵	0.21% - 0.25%	国債大量償還月による好需給環境が円債相場を支えるも、強い方向感や積極的な買い材料には乏しく、レンジ内推移となるか。

3. 今週のトピックス

ブラジルリアル相場見通し

資源価格の高止まりがリアル相場を後押しするものの、世界的な景気減速懸念から上値も限定的か

<ブラジル経済動向>

IMFが予測するブラジルの実質GDP成長率は、2022年が+0.8%、2023年が+1.4%と2021年の+4.8%には及ばない見通しだ。これは、新型コロナの感染拡大に対応するための経済政策の効果が薄れてきたことに加えて、昨年の干ばつと今年に入ってからの大雨被害による農産物生産量の減少、インフレの高止まりによる消費の減退、中国のロックダウンを受けた輸出の縮小観測が主要因となっている。

ブラジルのCPIは商品価格の高騰で輸入物価が急上昇したことから高水準で推移しており、4月には2003年以来となる前年比12%台まで上昇。ブラジル中銀は5月に政策金利を1%引上げて12.75%とし、昨年2月の2.00%からの利上げ幅は10%以上に達しているが、インフレの高止まりに対応するため、今後も利上げは継続していくとみられる【図表1】。一方、ブラジルの鉱工業生産については、利上げの影響で企業による設備投資意欲が弱まっていることから前年比でマイナス推移となっており、景気回復の力はそれほど強くないといえる。

<ブラジル大統領選>

2022年10月にはブラジル大統領選挙が行われる。現時点では2003年から2期8年大統領を務めたルラ元大統領が世論調査の支持率で首位となっており、現職のボルソナロ大統領が劣勢の展開だ。ルラ元大統領は、民主主義や環境問題を軽視するボルソナロ大統領を批判し、富裕層への課税強化や財政支出の拡大、社会保障の拡充、アマゾン熱帯雨林の保護などを主張している。ただし、今後は両候補ともに選挙対応として賃金の引上げや過度の財政拡大を公約に掲げる可能性があり、ブラジルリアルの上値抑制要因となてきそうだ。

<当面のブラジルリアル相場見通し>

資源産出国であるブラジルはウクライナ情勢の混迷を受けた資源価格の高騰を受けて貿易黒字が拡大【図表2】。また、ブラジル中銀による急速な利上げもあってブラジルリアルは堅調に推移し、4月には2020年以来となる4.5853まで買われる展開となった。その後、上海のロックダウン長期化による資源需要の減退や米国FRBによる急速な金融引き締めによってドル買い圧力が強まったことから一時的に反落する動きも見られたが、足元では再びリアル買いが強まり、2022年5月31日時点の年初来対ドル騰落率は+17.80%となっている。

当面のブラジルリアル相場については、資源価格の上昇が相場を後押しするものの、世界的な景気減速懸念から上値も抑制されるとみられ、対ドルでは200日移動平均の5.2692をサポートとみた4.5000-5.2500【図表3】、対円では25.00-28.00円のレンジ推移を想定している。

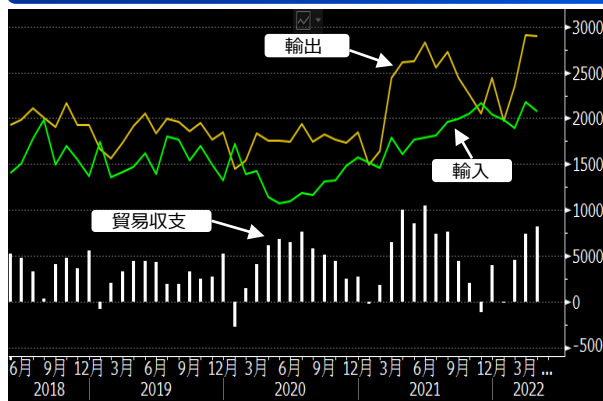
(チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我)

【図表1】 ブラジルのCPIと政策金利 (%)



(出所: Bloomberg)

【図表2】 ブラジル貿易収支 (百万米ドル)



(出所: Bloomberg)

【図表3】 ブラジルリアル (対ドル) 相場



(出所: Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会